

東温市立川内中学校 研究報告

1 取組の内容

(1) 「話すこと」の技能を高めるために

ア チャット指導

生徒同士で英語を使った会話を楽しむことができるように段階を追った指導に取り組んだ。最初は、あらかじめ対話する内容を与え、ペアで質問したり答えたりする練習を行う。次に、「相槌を打つ」「ジェスチャーを使う」「繰り返す」など応答する練習をする。そして、「自分から質問する」「自分の答えに1文付け足して言う」「自分の意見や感想を言う」など対話を発展させるためのポイントを具体的に指導した。

イ 音読指導

今年度は「話すこと」への橋渡しという役割を重視し、聞き手を意識した音読指導に取り組んだ。強勢、イントネーション、音の連結など音読する際のポイントをわかりやすく示したワークシートを作成し、ジェスチャーをつけながらペアと協力して音読練習に取り組ませた。

(2) 「書くこと」の技能を高めるために

まず、生徒が日記に書きたくなるようなテーマを選び、それについて書く練習を行った。生徒が書いた日記は教師が添削して返却し、ファイルに綴じていく。夏休み以降は、テーマを与えず自由に3文でつながりのある日記を書かせるようにした。

(3) ICTの効果的な利用

主に電子黒板を利用して「新文型導入の際に、写真やイラストを提示して生徒の理解を助ける」「同じ画面を用いて前時の学習の復習を行う」「新出語句の発音練習を行う」「写真や動画を用いて英語学習への興味・関心を高める」などの取組を行った。

2 成果と課題

(1) 成果

ア 「話すこと」について

チャットにおいては、生徒が喜んで英語を使い、会話を楽しんでいる姿が見られるようになったことが一番の成果である。チャット指導を通して、生徒は自由な会話の中で、コミュニケーションの楽しさを実感し、友人関係を深めていくこともできるということに気付いた。

イ 「書くこと」について

日記は、生徒にとって一番身近にできる自己表現活動である。英語3文日記を続けることによって、生徒の書く力には向上が見られるようになった。辞書を使って積極的に書いている生徒が増えており、「書くこと」に対する意欲の向上が見られる。

ウ ICTの効果的な利用について

電子黒板を活用することによって、教師による説明の時間を短くして、生徒の活動時間を確保することができた。また、生徒の集中力や学習意欲の向上にも役立っている。生徒へのアンケート結果からもほぼ全員の生徒が「電子黒板を利用した授業は楽しく、分かりやすい」と感じていることが分かった。

エ 全体を通して

2年生を対象に行ったアンケートにおいて次のような回答が得られた。

『英語の授業は楽しいですか。』

(%)

	はい	どちらかと言え ばはい	どちらかと言え ばいいえ	いいえ
5月	43	52	5	0
9月	30	57	13	0
12月	32	60	7	1

「はい」と答えた生徒の割合は低くなっているものの、全体的には「英語の授業は楽しい」と感じている生徒が多い。このことも研究成果の一つではないかと考える。

オ 小中高の連携

今年度、4回の研究推進委員会を開くことによって、推進委員会のメンバーである校区内の小学校並びに市内の県立高等学校の先生方と有意義な情報交換を行うことができた。4回の研究推進委員会の他に、小学校と高等学校での授業を参観する機会が得られたことは、特に学ぶことが多くあった。

(2) 課題

ア 「話すこと」について

チャットは生徒が自由に英語を使って会話する活動であるため、英語を使っても不正確だったり同じ表現の繰り返しだったりする場合がある。また毎回同じパターンでチャットを繰り返すことに飽きてきた生徒もいる。今後は、生徒が楽しくより正確にたくさんの英語を話すことができるように、指導の工夫・改善を図りたい。

また、音読指導の工夫について、十分な検証を行うことができなかった。生徒はペアと協力して楽しく音読練習に取り組み、チャットやスキットの中でジェスチャーを使って会話する生徒も出てきた。しかし、音読指導の工夫によってどのような成果が得られたかについては今後も研究を続ける必要がある。

イ 「書くこと」について

アンケート結果によると、「英語3文日記を書くことは楽しくない」と感じている生徒が37%だった。全体的に書く力の向上が見られる一方で、「書くこと」に対する苦手意識を持つ生徒は少なくない。また、「何を書いたらいいかわからない」という生徒もいる。なかなか書けないでいる生徒に対して、自分の力で書くことができるように指導していくこと、「書くこと」に楽しく意欲的に取り組むことができるように指導の工夫を図ることが今後の課題である。

ウ ICTの効果的な利用

電子黒板には様々な利点があるが、1時間の授業の流れを残しておくことは難しい。その時間に学習した内容を生徒が振り返り要点をまとめるためには、構造的な板書にすることが重要である。アンケート結果においても、少数ではあるが「時々見えにくい時がある」「黒板に書いてほしい」という意見があり、今後は、電子黒板と板書とのバランスについて研究を進める必要があると考える。

3 成果のあった取組事例

(1) チャット指導

チャットにおいて、相手の発言に反応したり、自分の思いを何とか伝えようとしたりするなど、生徒同士で生き生きと英語を使う姿が見られるようになった。最初は、一問一答で終わってしまい、なかなか会話の続かなかったペアも、回を重ねるごとに「相手に聞き返す」「相槌を打つ」「2文で答える」など対話を発展させるためのポイントを身に付けてきている。12月に行ったアンケート結果によると、「チャットは楽しいと思いますか」という質問に「はい」「どちらかと言えばはい」と答えた生徒は91%だった。また、「チャットは話す力を伸ばすために役立っていると思いますか」という質問に「はい」と答えた生徒は76%、「どちらかと言えばはい」と答えた生徒は24%で、生徒全員がチャットは話す力を伸ばすために役立っていると感じていることがわかった。

2学期末にALTとのインタビューテストを行った。その後のアンケートにおいても、「1学期よりもよく話せた（反応できた）」と答えた生徒は70%で、「笑顔で楽しく話すことができました。自分から質問したり、リアクションしたりすることでもできたので良かったです。このことは役に立つと思うので授業でもがんばりたいです。」「前よりもたくさん話せたと思います。これからもチャットの練習をして鍛えていきたいです。」などの意見があった。生徒たちはチャットを通して「話すこと」への意欲を高め、少しずつ力を伸ばしている。

(2) ICTの効果的な活用

新文型導入の際、電子黒板に写真やイラストを提示すると、生徒は写真やイラストを見て意味を推測しながら教師の話を聞くことができる。これまでは集中して話を聞くことが難しかった生徒にとっても、理解を助けるための重要な手立てとなっている。また、動画を映して対話のモデルを示したり、前時の学習の復習や新出語句の練習を短時間で行うことができたりして、授業をテンポよく進めることにたいへん役立っている。さらに、タブレット型端末を用いて生徒の作品を撮影し、電子黒板に映して紹介するという取組も行った。

12月に行ったアンケート結果によると、「電子黒板を使った授業は楽しいですか」という質問に「はい」と答えた生徒が60%、「どちらかと言えばはい」と答えた生徒が40%だった。また、「電子黒板を使った授業はわかりやすいですか」という質問に対して「はい」と答えた生徒は60%、「どちらかと言えばはい」と答えた生徒は38%、「どちらかと言えばいいえ」と答えた生徒は2%だった。このことから、電子黒板の利用に対して、ほぼ全員の生徒が肯定的にとらえていることがわかった。

今後も、授業のねらいを達成するための手段の一つとして、電子黒板の効果的な活用について研究を続けたい。